

## 京都～米原間で

# 時速330キロの試験走行！？

## ワシントンで葛西会長が講演！

6月29日、マスコミ各社は、訪米中のJ R 東海の葛西敬之会長がワシントンでラフード米運輸長官と会談し、オバマ政権が掲げる米国の高速鉄道整備計画に「（東海道新幹線の最新型）700系が一番ふさわしい」と新幹線の採用を働きかけたと報じました。

また、ホワイトハウス近くで開かれた講演会で、ミネタ元運輸長官ら約100人を前にして、「N700系の営業車両で11月に時速330キロ出す」「フランスのTGVの320キロより早く、同月に名古屋で開催する高速鉄道国際シンポジウムに合わせ、米原～京都間で営業運転後の深夜に走行実験する」ことを講演の中で明らかにしたことも報じました。

しかし、この報道内容が事実であるという確証はありません。なぜなら、この報道から2週間が経過した現在においても、会社からは何らの説明がないからです。

時速330キロというスピードは現在の最高速度より60キロも早く、未知の世界です。N700系車両は最新型の車両とはいえ、安全を担保するには、車両の走行を支える道床の安全性など各系統の安全確保が必要です。したがって、極めて慎重な対応が求められなければなりません。J R 東海労は、この問題に対して7月15日「申第7号」で申し入れを行いました。

### 新幹線の試験走行に関する申し入れ

1. 報道が事実であれば、労働組合へ早急に説明を行うこと
2. 時速330キロ走行が可能とする根拠を具体的に明らかにすること。
3. 試験走行車両に乗車する関係社員の安全はどのように担保するのか明らかにすること。
4. 営業運転後の深夜の走行試験に対する沿線住民への説明をどのように考えているのか明らかにすること。